

会議録

会議の名称	社会教育委員の会議（12月定例会）
開催日時	令和7年12月19日（金）午後2時から午後4時まで
開催場所	田無第二庁舎4階会議室
出席者	委員：川原議長、松本副議長、斎藤委員、伊尻委員、小野委員、岩穴口委員、山本委員、大宮委員、堀田委員、河野委員、田口委員 事務局：大内地域学習推進課長、鬼頭地域学習推進係長、野田主事、石島主事
議題	（1）生涯学習の情報発信について （2）今後の活動について
配付資料	
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

会議内容

●議題に入る前に、12月13日（土）に開催の「令和7年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会」に出席した委員より、研修会の所見の発表。

○委員：他ブロックの研修会では、不登校など様々な社会教育の問題をとりあげた演劇の実施や、文学などを取り扱った研修について報告され、ブロックにより切り口が異なり、学びになった。

○委員：社会教育の課題に対して、各自治体で色々なアプローチで対応していることが分かった。社会教育委員研修会のおやじの会の講演を受け、当市としても、社会教育に関し、子どもの頃からアプローチしていくと良いと思った。

議題（1）生涯学習の情報発信について

●事務局より、今年度の情報発信の強化の活動に関して、当市の生涯学習情報のホームページ見直しについて説明。現状の各ページのアクセス数や、検索ワードについても説明。

●議長：このことについて、委員各位から何か意見はあるか。

○委員：

＜本活動の目標について＞

- ・ホームページは持続的で活発的なものでなければならない。多くの方が興味を持つ情報を載せる必要がある。改訂できるページは限られてはいるが、最終的に目指すゴールをどこにするか、考えなくてはならない。

＜登録内容一覧、自主企画講座登録一覧について＞

- ・いずれの情報もPDFファイルにまとめられておりファイルを開かないと見られない状況。検索性や視認性に欠ける。

＜実績報告書について＞

- ・実績報告は様式を印刷して記入し市に提出するフローである。実績は講座を実施した人にフィードバックされるべきだと思う。

＜相談カード＞

- ・利用者は様式を印刷して記入し、窓口まで持ってくる必要があり、リアルタイムに情報を得られないことが課題だと考える。

＜利用者の目的と動線のシミュレートについて＞

- ・「知りたい、学びたい」利用者は学びたい講座、どの施設に何の講座があるかを探す。
現状のホームページには人材情報と講座情報があるが、これらが施設情報とリンクしていないので、利用者にとって講座を探そうとしても、情報にアクセスし辛いように思う。
- ・「教えたい」利用者は人材登録をする。私も人材登録しているが、この登録の制度があまり知られていない。また、人材と講座のマッチングを強化した方が良いと考える。さらに、講座を実施するための施設の予約にも紐づけできるとなお良いと思う。
- ・利用者にとって受講履歴を残すことは個人のモチベーションになる。社会教育にとっては大切なことである。
- ・「教えたい」講師側にとっても、講座の実績を残すことでモチベーションとなる。これはその講座を利用する人にも役立つ情報である。

＜生涯学習情報の種類について＞

- ・生涯学習情報は、①市などが整備している「公的講座」、②市民が企画する講座の「市民講座」の2つがあると考える。
- ・公的講座は紙とWebのクロスメディアで整備がしやすい。一方で市民講座はWebの整備をしないと盛り上がらないため、①と②の両者が行き来することが望ましいと考える。

＜他自治体の事例紹介＞

- ・「まなびアイふくおか」では、利用者の目的から情報を探すことができるようになっており、分かりやすい。
- ・「ぐんま県民カレッジ」では、講師の活動報告など実績が掲載されている。
- ・このように、県が生涯学習情報のホームページを運営しているケースもあるが、東京都としてはやっていない。

＜まとめ＞

- ・最終ゴールをどこに置くか考える必要がある。どの範囲（都か、市町村か）で行うのか。
- ・また、施設とは連携するのか。当市には多摩六都科学館があるが、他市とも関係がある。
他の事例を紹介すると、「シブヤ大学」はNPO法人が運営しているが参考になる。

○委 員：人材情報について、登録されている人数などは把握できたが、それを元に市民と登録人材が何件くらいマッチングしたのか情報はあるか。

○事務局：多くて年間10件くらい相談があるが、その内マッチングしたのは数件ほど。

○委 員 :

<課題点>

- ・当市の生涯学習のホームページは組織単位の構成になっているため、「情報を探している人向け」ではなく、「情報の送り手」としてのホームページになっている。公民館は公民館で別サイトとなっており、ポータル機能がない。
- ・色々な属性で情報を整理することができない。
- ・視覚的情報が少なく文字が多い。画像等を使えば、講座の魅力がもっと伝わるはずである。
- ・PDFは検索には引っかかると思うが、スマートフォンでは見辛いため、離脱の原因になっていると思われる。

<他自治体の事例について>

- ・渋谷区は見やすく、スマートな印象。
- ・市川市はシンプルに情報が分類分けされており見やすい。所管課も併記されている。
- ・武藏野市は動画による情報発信など、ビジュアルを工夫している。

<まとめと提案>

- ・今年度どこまで取り込むかはさておき、利用者の動機や動線に基づいた設計が必要。
- ・コメント機能などがあっても良いと考える。受講者の声があつた方が良い。
- ・SNSとどう組み合わせるか。学びをYoutubeで可視化したり、ハッシュタグを作ったりなど。
- ・講座を予約するとシステムのスケジュールに自動で登録されるなどできると良い。
- ・長いスパンで考えると、情報をまとめる必要があるが、組織的な隔たりもあり難しい。
- ・視認性の改善も必要であるが、頼りすぎると視覚障害者等に影響がある。

○委 員 :

- ・公民館の中では、サークル内で月謝をとて講座の運営費を捻出し、市民には無料で利用できる講座を運営するサークルもある。情報強化の流れの中で、営利が目的となってしまわないかを懸念している。
- ・講座を企画する側が講師を探す際に、必要な情報が届くホームページになると良い。
- ・前期の提言において、イベント情報のページが見辛いという意見があったと思う。
ただ、イベント情報も含めて考えるのかは整理して考えたい。

○委 員 : ホームページを見て、誰にどんな情報を届けたいのか分かり辛いと思った。

どこまで見直しができるか、短期と長期の両軸で考えていく必要がある。

その上で、今年度できる事としては以下があると思う

- ・「終了しました」と止まっているように見えるコンテンツが多い。何が動いているのか見えるようにすると良い。
- ・講師や受講者のコメントを掲載する。
- ・講師の写真を掲載することで、親しみが持てる。

○委 員 : 色々な場所、課に散らばる生涯学習の情報をまとめられると良い。

また、アクセス数から、市民は自分のこと、家族のこと、地域のことを求めていると分かる。それらを主体に考えていくのも良い。

○委 員 : 利用者が所望する情報がある場所へ行きつくことができるように、フローチャートのようなものがあると良いと思う。

また、色々な団体が同じようなイベントをやり、同じような先生を呼んでいたりするので、組織横断的に情報を一元管理し、市でやっているイベントを網羅できると良い。

○委 員：講師の数が少ない。公民館の情報と統合できると良いと思う。

○議 長：どういった流れで講師として一覧に登録されるのか。

○事務局：登録の申請書をもらい、課内で精査したあとに掲載される。

○委 員：生涯学習とは何か、その意義と目的や、市としての取組などが、ホームページの入口にあると受け手側として見た時に分かりやすいと思う。

○委 員：人材登録の一覧について、謝礼の金額や講師が教えた内容が見辛い。自分が何かを学びたいと思って開くページではないと感じた。

また、公民館ではサークルが月謝を集めて講師料を払っている。一方で生涯学習人材情報の方は「謝礼は別途」とあり、その違いに違和感を覚えた。

○委 員：学校という立場で利用すると仮定した場合、人材の情報を探すことになると思うが、PDFで一覧となっており、全部スクロールして探さないといけないため利便性が悪い。講師の登録者数も少ない。

また、「現在実施していない」とある情報を載せる必要があるかは検討が必要。

○議 長：検索性の向上についてホームページの整備が難しい場合は、市川市のように分類分けによる工夫ができれば良いと思う。

○委 員：

- ・「生涯学習人材情報提供事業」とあるが、教えたいと思う講師が主体なのか、学びたい人が主体なのか、両者のマッチングが主体なのか不明。
- ・講師を主体とした場合、私は講師として色々な小学校で教えてきたが、現状、講座実績情報が無いので、続けていくモチベーションがあがらない。
- ・マッチングを主体とした場合、マッチングするまで待っているだけで、流動性が悪いと思う。

○議 長：事務局として、何が主体であると想定しているのか。

○事務局：生涯学習は、教える側と受けて側で学びの循環が起こる。そのため、どちらも主体となる。

○議 長：検索性に関して、他自治体で講師の名前を出している例はあるか。

○委 員：「まなびアイふくおか」など。講師の名前を伏せている例の方が少ないように思える。

○委 員：人材情報について一番の心配は講師の安全性。誰を載せるかの基準を考える必要もある。また、生涯学習で大切なのは、マッチングの件数ではない。マッチングしたという事実が大切である。

○委 員：講師の実績を載せる場合、利益誘導になりかねないので、市としての制約があれば提供して欲しい。

○委 員：検索性、視認性が不足している。また、「生涯学習」のような分かり辛い用語について最初に説明があっても良いと思う。講師の安全性については、受講者の声が必要であると考える。

●議 長：事務局には、今回の議論であがった各委員の意見をまとめていただき、次回また今年度の生涯学習の情報発信について方針を議論したいと思うがよろしいか。

一同、異議なし。

議題（2）今後の活動について

●議 長：来年度以降の社会教育委員の会議の活動内容について、情報発信の強化を引きつづき進めることも良いと思うが、その他に取組みたい活動があれば提案して欲しい。

○委 員：ブロック研修会の中で、人材育成の課題があがった。公民館等における人材育成について考えていきたい。

○委 員：他市ではコミュニティセンターがあるが、当市ではコミュニティセンターと公民館をどのように区別して考えているのか。

○事務局：公民館をコミュニティセンターとは区別し、伝統的に公民館という場を大切にしてきて いる。

○委 員：子どもや中高生をテーマに、不登校やコミュニティスクール、地域学校協働活動に関して 活動内容を広げていくのも良いと思う。また、そういった学校を核としたもの以外に、 若者達がチャレンジしていく街にしていきたい。これは、次世代の育成にもつながると思 う。

○委 員：ホームページの見直しの取組は長期間に渡って行い、市民にどの情報を見せるか等を 整理することにより、市として取組まなければならない課題がツリー状に出てくると 思われる。

●議 長：来年度の活動内容として、今回あがったテーマを整理すると下記の通りになると 思われるが、何か意見はあるか。

1. 次世代の人材育成（公民館等において）について
2. 公民館、コミュニティセンター等、学びの場について
3. 不登校、コミュニティスクールと地域学校協働活動について
4. ホームページの見直し、アナログメディアとの連携について

一同、異議なし

次回会議

日時 令和8年1月23日（金）午後2時

場所 田無第二庁舎3階会議室